

Title	穀物倉庫論
Author(s)	河田, 嗣郎
Citation	經濟論叢 (1915), 1(6): 653-684
Issue Date	1915
URL	http://dx.doi.org/10.14989/126934
Right	
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	publisher

京都帝國大學法學科大學

經濟論叢

第六號

第一卷

論說

●米價ノ騰落ト其調節ニ就テ(二)

●穀物倉庫論

●貧富問題(三、完)

雜錄

●大藏省證券ニ就テ尾上學士ニ應フ

●南洋新占領地研究ノ二
まーしやる群島研究

●保險學說ノ發展(二)

雜報

●經濟的進化ト人口法則(二、完)

●最近ノ金融問題(二)

●廣告稅ト廣告官營

●戰爭ト英國ノ貿易

●社會政策學會第九回大會記事

●京都法學會大會記事

法學博士 戸田 海市

助教授 河田 嗣郎

法學博士 田島 錦治

法學博士 小川 郷太郎

助教授 山本 美越乃

法學士 小島 昌太郎

講 師 米田 庄太郎

谷村 一太郎

法學博士 神戶 正雄

助教授 河田 嗣郎

講 師 高田 保馬

穀物倉庫論

助教授 河田 嗣 郎

（一穀倉ノ構造——二穀倉ノ種類——三米國ノ穀倉——四獨逸ノ穀倉——五穀倉組合）
六穀倉組合ノ困難

一ノ獨立シタル經營トシテノ穀物倉庫ノ經濟上ニ於ケル意義ノ認メラレ、之ニ關スル研究ノ行ハレ、又其ノ設立ニ關スル運動ノ表ハレ來ルニ至ツタノハ、今ニ始マラヌ事デアルガ昨年來米價ノ暴落ノ爲メニ所謂米價調節ナルモノノ喧傳セラレ、之ニ關スル種々ノ方策ノ講究セラルルニ至ツテヨリ、穀物倉庫就中特ニ米券倉庫ニ對スル世ノ注意ハ俄カニ其度ヲ増シテ來タ様デアル。

我國ニ於テ米券倉庫ナル一ノ名ノ下ニ呼バレテアルモノノ中ニハ、頗ル其ノ性質ヲ異ニシ從テ大ニ其ノ經濟的利害ヲ同シセザルモノガ包括セラレテアル而シテ吾人ハ所謂米券倉庫ナルモノノ形式ヲ離レテモ尙ホ他ノ形ニ於テ克ク方今問題トセラレテ居ル穀物倉庫ノ設立ヲ爲スコトガ可能デアルノミナラズ、又其働ニ依ツテ農生産物（特ニ米穀）ノ賣買狀態ヲ改善シ其ノ利用ヲ^{フレイト・エサツク}増シテ現狀ヨリモ更ニ有利ナラシメ、依テ以テ農業者ノ利ヲ大ナラシムルト同時ニ一般ニ農産市場組織ヲ今少シク整備ナラシムルヲ得ルト信ズル。仍テ吾人ハ茲ニ少シク穀物倉庫ナルモノノ全般ニ涉ツテ概括的研究ヲ試ミテ見ヤウト思フ。

穀物倉庫ヲ論ズルニ就テハ此ニ吾人ノ示スモノ以上ニ尙ホ深ク其ノ國民經濟的價值ニ就テ考察スル所ナクテハナラヌ。即チ穀物倉庫ナルモノノ經濟上ノ働之ガ利用方法特ニハ穀物ニ對スル證券

ノ發行、之ガ流通、其ノ利害等ニ就テ十分ナル講究ヲ爲サネバナラヌノデアルガ、何分紙面ニ限アルコトデアレバ此等ノ問題ハ之ヲ一括シテ「穀倉證券論」ノ名ノ下ニ後日發表スルコトトスル。

一 穀倉ノ構造

凡テ穀物ハ之ヲ保存スルノ長キニ從ウテ其ノ容量、重量、其ノ色澤、其ノ成分等ニ變化ヲ生ズルモノタルヤ、人ノ好ク知ル所デアル。之ヲ米穀ニ就テ見ルモ極寒中ニハ其ノ容量ヲ減ジ、晩春初夏ノ候ニ當ツテ再ビ容量ヲ増シ、梅雨中ニハ更ニ容量ヲ増スト同時ニ多少ノ變質ヲ爲シ、盛夏後初秋ノ頃マデハ重量ヲ減ズルノガ通例デアリ、貯藏前ニ於ケル乾燥其他ノ手入ノ劣惡ナルモノハ殊ニ此等ノ變化ヲ被ルコトガ大デアル。而シテ又穀物ハ其ノ貯藏中ニ於テ此等外氣ノ作用ニ由ル變化以外、害虫鼠屬等ノ爲メニ喰害セラルル所モ少カラヌノデアツテ、害虫ノ種類ダケデモ七八種ハアリ、此ノ被害ハ特ニ我國ノ如キ溫暖ナル國ニ於テ甚シイ。

右等外來ノ傷害ヲ防グガ爲メニ穀物貯藏上ニ倉庫ノ必要ナルハ言フ迄モ莫ク、然カモ其ノ倉庫タルヤ、構造上ニ於テ完全ナレバナルホド穀物ノ傷害ヲ少カラシムルヲ得ルヤ勿論ノ義デアレバ、穀物倉庫ノ構造上ニ於ケル技術上ノ問題ハ先ヅ

第一ニ攷量セラル可キモノデアル。

先ヅ穀物ヲ腐敗ヨリシテ保存セムガ爲メニハ、空氣ノ濕潤ナル所ニ在リテハ全然空氣ノ流通セザル場所ニ之ヲ密藏スルヲ可トシ、空氣ノ乾燥セル場所ニ在ジテハ常ニ之ヲ新清ナル空氣ニ觸レシムルヲ可トスル。サレバ穀物貯藏ノ原始的狀態ハ開放サレタル乾燥ノ場所ニ之ヲ放置スルカ、然ラザレバ、藁ニテ濕氣ヲ防グ様ニ仕切ラレタル土穴中ニ之ヲ密藏ヘルノデアル。穀物ヲ土穴中ニ密藏スルコトハ古クハ廣ク行ハレタモノデアツテ、今日穀倉ノ通用語タル *Silo* ハ西班牙語デ土穴ヲ意味スル言葉タルニ徴シ見ルモ之ヲ知ルコトガ出來ル。西班牙ノ諸地方ニ在ツテハ今日尙ホ多ク之ヲ見ルヲ得ルトノコトデアル。註我國ニテモ嶋ヲ負フテ建テラレタルガ如キ農家ニ在ツテハ山麓ニ横穴ヲ穿ツテ之ニ穀物ヲ貯藏スルハ吾等ノ時々實見スル所デアル。彼ノ一般ニ行ハルル土藏ノ如キモ或ハ此種ノ土穴カラ發達シタモノカトモ思ハレル。何レニシテモ土藏ノ主旨ハ穀物ヲシテ餘リ外氣ニ觸レシメヌニ存スルコトハ明デアル。

歐米諸國ニテハ穀物ハ大抵、バラニテ貯藏セラレ、中小農ニアツテハ常ニ穀物ヲ外氣ニ觸レシムルガ爲メニ時々家中ノ手ニ依テ之ヲ交セ返スノデアル。之レ獨逸其他大抵歐洲ノ國ハ空氣ガ乾燥シテ

註=Wygodyński, Kornspeicher (im Contadsch. Hwb. d. Staatsw. Bd. VI s. 175.)

居ルカラ行ハルルヲ得ルノデアルガ、此法ハ唯ダ少量ノ穀物ニ對シテノミ行ハレ得可キデアツテ大量ノ穀物ニ對シテハ到底手數ト費用トニ堪ヘ得カラザル所デアル。従テ大量ノ穀物ヲ保存スルガ爲ニハ、數階若クハ二階建ノ倉ヲ作り、其ノ上階ノ土間ニ二枚板ト爲シ各板面ニ無數ノ小孔ヲ穿チ一枚ノ板ヲ動スニ依リテ孔ヲ開閉スル仕組トシテ置ク。扱テ穀物ハ先ツ之ヲ「エレザエートル」其他ノ仕掛ニ依ツテ上階ノ土間ニ盛リ右ノ小孔ヲ開放シテ少量ヅツ下階ニ漏レ落ッルニ委セル。斯クテ數日間ノ後上階ノ穀物全部ガ漏レ盡セバ再び之ヲ上階ニ運ビ、又前ノ道行ヲ繰返サシメ、常ニ穀物ヲシテ外氣ニ觸レシムル工夫ヲスルコトトナツテ居ル。

然ルニ北米合衆國ニテハ一八四〇年代カラシテ又古風ノ「Gig」式ヲ改造シタル倉庫ヲ見ルニ至ツタ。米國ノ穀倉ハ後ニ之ヲ詳論スルガ如ク都會ノ穀倉ト農村ノ穀倉トニ區別セラルルガ例デアリ、前者ハ之ヲ「Terminal elevator」ト呼ビ後者ハ之ヲ「Country elevator」ト稱スル。農村ノ穀倉ハ小麥作地ノ停車場ニ設ケラルルヲ普通トシ、其ノ收容量ハ七百乃至九百噸位ナルガ多數ナレドモ小ナルモノニ至ツテハ百二十五噸ヲ容レ得ルニ過ギヌ。穀物ハ凡テ「バラー」デ取扱ハルルコト歐洲諸國ト同様デアル。

Country elevator ハ大抵五乃至七階建デアツテ、其ノ一側面ハ直チニ鐵道ノ引込線ニ接シテ居ル。扱テ農民ニ依リテ持込マルル穀物ハ先ツ重量ヲ檢セラレテ最下階ノ土間ニ移サレ、elevator ノ仕掛ニ依テ最上階ニ酌ミ上ゲラレル(米國ノ穀倉ハ皆此ノ elevator ノ仕掛ナルガ故ニ穀倉其物ヲ「エデ elevator」ト稱スルノデアル)。最上階ニハ精清機ガ備付ケテアツテ穀物ノ塵芥ヲ除去スル。穀物ハ品質ニ依テ區別セラレタル上、貯藏櫃ニ入レラレルノデアル。Country elevator ハ六個乃至八個ノ貯藏櫃ヲ有スルガ普通デアアルガ、之ハ四角ナル大櫃デアツテ高サ五乃至十メーター、底面ハ三平方メーター位デ、容量二十乃至八十噸デアアル。而シテ此等ノ貯藏櫃ハ建物ノ中階ニ在ル。扱テ其ノ構造ハト見ルト、大ナル木材ヲ骨トシ之ニ釘付ニセル厚板ヲ張りテ造リタルモノト、板ヲ重ネ重ネテ打付ケタルモノヲ壁トシテ

作ラレタルモノトアル。ソシテ概ノ底面ハ一方ニ向ツテ傾斜シテ居リ其隅ニ穀物ヲ流出セシム可キ孔口ガ設ケラレテアリ穀物ヲ出ス際ニハ此口ヲ開キ穀物ヲシテ自然ニ流レ出デシムル。

貯藏中ノ穀物ノ乾燥不十分デ更ニ之ヲ乾燥スル必要アル場合ニハ其ノ程度ニ應ジ或ハ單ニ之ヲ概中ヨリ取出シテ下階ニ移シ elevator ニ依リ又再ビ上階ニ酌ミ上ゲ以テ單ニ空氣ニ觸レシムルノミニ止ムルコトモアリ又蒸汽ニテ熱セラレタル鐵管ノ中ヲ通過セシムルコトモアル。而シテ穀物ヲ倉庫ヨリ出ス際ニハ概中ヨリ流出セシメタル上之ヲ秤量シ更ニ之ヲ一ノ特別ナル概中ニ移ス其ノ仕事ハ勿論機械ニ依リテ行ハルルノデアル。此概ハ其ノ下口ガ細管ニヨリ直チニ鐵道ノ貨車ト連結スル様ニ出來テ居リ穀物ハ獨リデ貨車内ニ流注スルノデアル。

次ニ Terminal elevator ハ右 Country elevator ニ比スレバ頗ル規模廣大ナルモノデアツテ小ハ三千噸ヨリ大ハ八萬噸ノ穀物ヲ容ルルニ足ルモノガアル。而シテ此ノ方ハ穀作地方ニ通ズル鐵道ニ連續シテ建テラルルハ勿論他面ハ必ズヤ水路ト直接連絡シ得ル場所ニ設ケラルル鐵道ノ Turminus 有スル大都市ニ在ルガ故ニ之ヲ Terminal elevator ト稱スルノデアル。

此種ノ穀倉ニ在ツテハ鐵道ノ貨車ハ大抵建物内マデ入り來ル様ニ建テラレテアリ其運ビ來レル穀物ノ積ミ卸シハ機械ニ依リテ行ハレ頗ル迅速ニ荷卸モ積込モ出來ル。十九噸積ミノ貨車ヲ滿載スルニ時間デ僅カ一分半ヲ要スルニ過ギズ人手ヲ要スルコト從テ又至ツテ少クテ済ムノデアル。而シテ貯藏穀物ノ取扱ニ要スル設備ニ至ツテハ Country elevator ト大差ナク唯ダ其ノ規模ヲ異ニスルノミデアル。(註)

穀倉構造上ニ於ケル右二種ノ區別即チ獨逸風ノ Schutthodensystem ト米國風ノ

註 1. Böhm. Die Kornhäuser. Stuttgart 1898. s. 9 fg.
2. Dr. Schumacher. Der Getreidehandel in den Vereinigten Staaten von Amerika und seine Organisation. im Jahrb. für Nat. u. St. III. Folge X. Bd. 368 fg.

Silospelsystem. トハ其ノ利害固ヨリ地方ノ異ルニ依リテ同ジカラズ、獨逸ノ如ク空氣乾燥セル國ニ在リテハ後者ヨリモ前者ノ優レルコト試驗ノ結果實證セラレタケレドモ、我國ノ如ク空氣ノ濕氣ニ富ム所ニ在リテハ到底之ヲ用ヒ得可クモナイ。而シテ米國式ノ穀倉ハ庫内ノ容積ヲ十分ニ使用シ得ルノ利ト穀物ノ出シ入レニ手數ヲ要セザルトノ利ハアルケレドモ、若シ入倉穀物ノ乾燥不完全ナル場合ニハ時々注意シテ之ニ人工乾燥法ヲ施スノ必要ガアル。我國ニ在ツテハ由來穀物ヲ『バラ』扱ニスル慣習少キト、空氣ノ濕潤ニシテ日光乾燥ノミニテハ到底十分ナルコトヲ望ミ得可カラザルト、又一度十分ニ乾燥シタル穀物モ貯藏長キニ涉レバ多少又濕氣ニ襲ハルルヲ免レ難イ實狀アル等ノ爲メ、此ノ米國式ノ倉庫モ其儘ニ之ガ構造法ヲ輸入スル譯ニハ參ラヌ。然シ今後若シ我國ニ大穀倉ノ設立ヲ必要トスル場合アリトセバ、穀物ノ積卸ト人工乾燥法トノ設備ノ整ツタモノヲ必要トスルデアラウ。何レニシテモ我國現在ノ穀物倉庫ハ規模ノ大小ヲ問ハズ其ノ構造餘リニ不完全ナルノ譏ヲ免ルルコトガ出來ヌ。今少シク之ヲ改良スルニアラザレバ穀物ノ減量、變質、喰害等ノ爲メニ我が國民經濟ガ年々ニ失フ所ハ實ニ莫大ナモノタルヲ免レ難イ。要スルニ今少シク其ノ原始的狀態ヲ改メテ科學的改善ヲ行フノ必要切ナル

モノアルヲ否ミ難イノデアル。

二 穀倉ノ種別

穀物倉庫ハ其ノ設立ノ目的、經營ノ方針及ビ組織ノ方法ニ從テ之ヲ二大別スルコトガ出來ル。(一)ハ即チ普通ノ倉庫業ト同ジク其ノ設立ノ目的トスル所ハ營利ニ存シ、他人ノ穀物ヲ預リ之ヲ貯藏スルコトニ對シテ倉敷料ヲ取り、又或ハ之ガ販賣ノ委託ヲ受ケテ其ノ口錢ヲ得、又或ハ入庫穀物ニ對スル證券ヲ發行シテ其ノ手數料ヲ徵スル等、凡テ穀倉ノ業務ヲ一ノ營利事業トシテ營ムモノデアル。之ニ反シテ(二)ハ即チ穀物ノ共同ニ貯藏シ共同ニ販賣セムガ爲メニ組合ノ設ケラレ、其ノ組合ノ事業トシテ穀倉ノ業務ノ行ハルモノデアツテ、其ノ目的トスル所ハ倉庫業務ト云フ獨立ノ企業ガ營利ヲ爲サントスルニ存セズ、穀倉ガ成可ク兵營、官公衙、消費組合若クハ普通ノ穀物大消費所例ヘバ大工場ノ如キト直接ノ連絡ヲ有シ、サナクモ少クトモ穀物ノ大取引ヲスル大商人ト直接ノ取引ヲ爲シテ、出來得ル限り仲介商人ノ手ヲ離レ穀物ノ轉々賣買セラルル間ニ生ズル無用ノ費用ト仲介商人ノ利得トヲ省除シ、依テ以テ穀倉組合員タル生産者ノ販賣利益ヲ多クシ又確實ニセム

トスルニ存スル。從テ此ノ兩者ハ其ノ業務組織ノ上ニ於テモ其ノ經營方針ノ上ニ於テモ互ニ頗ル趣ヲ異ニスルモノデアル。

右兩者ノ中前者ハ之ヲ米國式ト謂ヒ、後者ハ之ヲ獨逸式ト呼ブトモ敢テ不可ナキ所デアル。即チ米國ニ於ケル從來ノ穀倉ヲ見レバ大抵皆之レ穀物ノ大輸出商若クハ大取引商人ガ全ク營利ノ爲メニ之ヲ設ケタモノデアツテ、其ノ目的トスル所ハ成可ク多大ナル企業利潤ヲ擧ゲムトスルニ在ルカラ、生産者タル農民トハ利害相反シコソスレ、決シテ相互共助ヲ目的トスルモノデハナク、純然タル商のノ企業デアル。尤モ米國ニモ組合組織ニ依ル相互主義ノ穀倉ガ無イデハナイガ、後ニ詳論スル如ク其等ハ未ダ十分成功スルヲ得ズ、殆ンド右ノ商のノモノガ霸權ヲ獨占シテ居ルノデアル。而シテ此種ノ穀倉事業ハ北米合衆國ニ於テ最モ好ク榮ヘテ居リ他ニ其匹ヲ見ナイノデアルカラ之ヲ米國式ト稱スルヲ得ル次第デアル。然ルニ獨逸ニ在リテハ當初穀倉ノ業ハ其範ヲ米國ニ求メタノデハアルケレドモ、之ヲ輸入スルニ就テハ獨逸固有ノ産業組合ノ精神ニ依リ、生産者タル農民ノ利益ヲ主眼ニ置キ其ノ販賣條件ヲ有利ナラシムルヲ目的トシ、寧ロ其ノ目的ノ爲メニ穀倉運動ノ起リ其運動ノ結果トシテ穀倉ノ設ケラルルニ至ツタモノデアルカラシテ、獨逸

ノ穀倉ハ産業組合組織ニ據ルモノトシテ表ハレ來ツタ。而シテ他ノ諸國ニ於ケル組合主義ノ穀倉ハ僅カニ獨逸ニ倣ツタモノタルニ過キヌカラ、此種ノ穀倉ハ之ヲ獨逸式ト稱シテ差支ナイノデアル。

予輩ハ右米國式ノ穀倉ヲ假リニ『商業穀倉』ト稱シ、獨逸式ノモノヲ『穀倉組合』ト稱セムトスル者デアル。而シテ以下此ノ兩者ニ就イテ各其ノ利害長短ヲ示ス積リデアルガ、前者ニ就キテハ先ヅ北米合衆國ニ於ケル實際ノ狀態ヲ述ベ、後者ニ就キテハ獨逸ニ於ケル設立ノ經過、設立後ノ成績、一般ノ利弊等ヲ述ベ、然ル上ニテ概括的ニ其ノ效用、經營上ノ問題等ニ關シテ論議シテ見タイト思フ。

尙ホ我國ノ米券倉庫ナルモノハ未ダ十分ナル發達ヲ遂ゲテ居ラズ從テ其ノ形態ト實質ノマダ固定シナイ所ガ有ツテ一概ニ右兩者ノ種別中ニ嵌込ムコトガ多少困難デアルガ、從來可也ニ古ク又可也ニ好ク發達シタモノハ大抵商法ノ規定ニ依ル普通ノ倉庫業トシテ遣ツテ來タノデアルカラ、之ハ商業穀倉ノ部類ニ屬スルモノト見ルノ外ハナイ。註。唯ダ近頃漸ク大ニ行ハレ來リ今後ハ更ニ大ニ發達スキ見込ノアル産業組合ノ事業トシテ所謂穀倉組合ナルモノモ之ヲ見ルヲ得ルノ機運ニ達シタノハ見逃ス可ラザルコトニ屬スル。

三 米國ノ穀倉

一ノ獨立シタル企業トシテノ穀倉ハ北米合衆國ニ於テ最モ早ク又最モ好ク發達シタモノデアツテ、寔ニ米國ハ近時ニ於ケル穀倉ノ模範國デアル。一八四六年初メテ Buffalo ニ設ケラレテ以來(註)全國ニ擴ガリ、今日デハ主要ノ麥作地方ニハ隨處之ヲ見ル有様デアル。而シテ米國ノ穀倉ハ前ニ一言セシガ如ク穀物ノ集散地タル都市ニ設ケラルル所ノ Terminal elevator ト麥作地方ノ田舎ノ停車場ニ建テラルル所ノ Country elevator トノ二ツニ區別セラルルデアツテ、就中農生産者ノ直接ニ交渉ヲ有スルハ後者デアリ、前者ハ後者ニ集メラレタル穀物ヲ更ニ集容セムガ用ニ用ヒラレ大規模ナル純商的取引ノ機關デアル。而シテ其ノ構造ハ前ニ詳述シタ通りデアル。

米國ノ穀倉ハ大抵其ノ營業ヲ目的トスル大會社ノ所有ニ屬シテ居ルノデアアルガ、Country elevator ノ中ニハ産業組合ニ屬スルモノモアリ、又大地主ガ獨力之ヲ建テテ居ルノモアル。而シテ此ノ穀倉會社ハ製粉業者及ビ輸出商人ニ依リテ設ケラルルガ普通デアリ、鐵道會社ハ當初ハ多ク之ニ關係シテ居タガ今デハ直接ニ之ニ

註= Böhm. a. a. O. S. 8.

關係シテ居ルハ尠ク、唯ダ大輸出商人ト業務上ノ連絡ヲ有シ運賃其他ニテ彼等ニ對シ種々ノ特惠的待遇ヲ與フルト云フ點ニ於テ間接ナル利害ヲ持テ居ルニ過ギス。米國ノ穀倉ガ右ノ如ク純然タル營利的ノモノデアリ商人ノ所有ニ屬スルノ結果トシテ、穀物ノ生産者タル農民トノ關係ハ利害相反スルガ爲メニ兎角圓滿ニ行キ兼スルノ有様デ、其ノ弊害ハ寧ロ頗ル顯著ナルモノガアル。即チ商人ハ穀倉ヲ專有シ然モソガ漸次獨占的傾向ヲ呈シ來ツタモノデアルカラ、彼等ハ之ヲ利用シテ穀物ノ賣買ニ於ケル中間ノ利益ヲ壟斷セムト企テ、生産者等ヲシテ其ノ穀物ヲ此種ノ穀倉ニ貯藏シテ市價ノ良好ナル時期ヲ待ツコトヲ爲サシムルヨリモ、穀倉自ラ之ヲ買取り之ヲ貯藏シテ市價ヲ左右セムトスルノ風近時益々顯著トナツテ來タノデアアル。

今少シク詳細ニ穀倉ト、就中特ニ Country elevator ト、農業者トノ利害ノ衝突スル理由ヲ攷ヘテ見ルニ、米國デハ農生産者ハ大抵自ラ穀物貯藏ノ爲メノ倉庫ヲ所有シテ居ル者ナク、穀物ハ之ヲ刈取レバ其ノ乾燥スルヲ待テ畑ノ中ニテ thresh シ簡單ナ手入ヲシテ直チニ右ニ述ブル穀倉會社ノ倉庫ニ持テ行キ、其儘賣ルナリ預ケルナリスルノガ例デアルガラ、農生産者ハ既ニ第一步ニ於テ弱者タル位置ニ立ツテ

居ルノデアル。即チ農生産者ハ其ノ生産シタル穀物ヲ畑ヨリシテ穀倉ニ持運ムデ行ケバ、穀倉ノ管理人ト先ヅ其ノ品質ニ就テ協定シ其ノ合意ガ出來レバ之ヲ秤量シテ品質重量ニ從ヒ最近地方ノ取引所ノ最近ノ公定相場ニ照シテ其ノ價格ヲ定ムルノデアルガ、此ノ品質ノ決定及ビ價格ノ評定ニ就テ已ニ兩者ノ利害ハ相反シ、農生産者ハイツモ獅子ニ對スル羊ノ地位ニ立タザルヲ得ナイ。

何シロ米國ノ穀倉會社ハ龐大ナルノガ多ク、大資本ヲ擁シテ穀物市場ヲ支配スルノ實力ヲ有シテ居ルモノダカラ、穀價ノ標準タル取引所ノ公定相場モ實ハ此等ノ大穀倉會社ノ手ニ依リテ支配セラルルノデアリ、農生産者ハ事實上穀倉會社ノ定ムル價格ニ於テ穀物ノ賣却ヲ爲ス外ハナイノデアアル。尤モ農民ハ穀物ヲ直チニ穀倉ニ賣却シナクトモ、暫ク之ヲ預ケ入レテ置キソレニ對シテ穀倉證券ノ發行ヲ受ケ、之ヲ以テ他ニ賣却スルナリ又一時銀行カラ資金ノ融通ヲ受クルナリ、其道ハ一通リ備ハツテ居ルノデアアルガ、一時銀行ニ證券ノ質入融通ヲ受クル分ハ格別決局穀物ヲ賣捌ク一段ニナルト大抵ノ場合之ヲ其ノ穀倉ニ賣ラザルヲ得ナイ實狀ニ在ルノデアアル。即チ大多數ノ農生産者ハ其ノ穀物ヲ直接ニ近隣ノ都市ニ於ケル市場ニ賣却セムトスルニモ、悲哉其ノ方便ヲ有セナイ。先ヅ穀物ヲ其地ニ輸送スル

上ニ大不便ガアル。鐵道會社ハ農民ノ提供スルガ如キ少量ノ穀物輸送ヲ爲スヲ好マナイカラ其ノ運賃ハ、穀倉會社ガ大量ノ穀物ヲ頻繁ニ委託運送スルモノヨリモ、高カラザルヲ得ナイ。又鐵道會社ハ途中ノ損傷ニ對スル責任ヲ負ハヌ。次ニハ又農民ハ自ラ都市ニ出掛ザル限りハ、必ズヤ然ル可キ代理人ヲ頼ミテ穀物賣捌ノ方法ヲ講ゼナケレバナラヌノデアルガ、此ノ代理人ニ信任ノ置ク可ラザルハ又多ク穀倉會社ニ信任ノ置ク可ラザルト選バナイノデアル。要スルニ農民ハ自己獨立ノ穀物販賣ヲ爲スノ便利ヲ有セザル者デアツテ、所詮販賣ハ之ヲ其地ノ穀倉會社ニ就テシナケレバナラヌ境涯ニ立テ居ルノデアル。みねそた州ノ如キニ於テモ農生産者ニシテ直接ニ其ノ穀物ヲ都市ニ賣却スル者ハ其數僅カニ五%ニ過ギヌトノコトデアル。亦以テ一般狀態ヲ知ルコトガ出來ル。

唯纔カニ農生産者ニ有利ナル場合ハ一停車場ニ二ツ以上ノ穀倉^{エレベエトール}ノ存在シ、其ノ所有者ノ異リ、兩者ノ間ニ競争ノ行ハル場合ノミデアル。

凡テ右等ノ弊害ニ對シテハ農生産者ハ何トカシテ穀倉會社ノ羈絆ヲ脱セムモノト企テ、自助ノ方法ニ依ル産業組合ヲ組織シ穀倉組合ヲ設ケムト大ニ運動之レ努メタケレドモ、兎角思ハシク行カヌノデアル。今此ノ運動ノ指導ヲ爲スモノ如何

ト見ルニ、ソレ National Grain Growers Association 其他 The Farmers Alliance 及 The American Society of Equity 等ヲ主トスルノデアツテ、其ノ運動ノ顯著ナルモノハ、舊テ一八九八年及ビ其翌年ニ前ニ、者ガ非常ナル勢ヲ以テ『穀倉トラスト』征伐ヲ試ミ、穀倉組合ノ設立ヲ推獎シ、二年間ニ二百四十三個ノ穀倉組合ヲ設立シ得タコトデアツタ。然ルニ不幸ニモ此企ハ一方ニ穀倉會社ノ鐵道會社ト結託シタル大妨礙運動行ハレタルト、穀倉組合ノ理事者ニ商的技能乏シカリシトノ爲メニ、全ク失敗ニ歸シテシマツタ。其後今日ニ至ル迄穀倉會社ニ對スル農生産者ノ反抗運動ハ依然トシテ行ハレ、色々計畫モ立テラルルノデアルガ、其ノ勢力ハ依然トシテ振ハズ、米國ノ穀物市場ハ全ク商權ノ支配スル所ニ屬シテ居ル。而シテ這種ノ問題ニ對スル國權ノ立入リタル干渉ハ米國デハ到底望マレナイ所デアル(註)

四 獨逸ノ穀倉

獨逸ニ於テ穀倉ニ關スル米國ノ制度ヲ輸入セムトスル運動ノ起ツタノハ、其ノ目的トスル所全ク米國ニ於ケルト異リ、唯ダ之ニ依ツテ生産者ト消費者トノ連絡ヲ計リ、生産者ニ穀物共同販賣ノ利益ヲ得セシメ、又低利ナル資金ノ融通ヲ得ルノ

註=1. Wygodzinski a. a. O. S. 176.

2. Böhm a. a. O. S. 29-34.

道ヲ開イテ、彼等ヲシテ收穫後直チニ其ノ生産穀物ヲ賣急グコト無カラシメントスルニ存シタ。而シテ此ノ目的ヲ達セムカ爲メニハ産業組合ニ依ル穀倉ヲ設クルヲ可トスルコト夙ニ唱道セラレ、之ニ關スル運動ハ一八八〇年代ノ中葉頃ヨリシテ行ハレ來ツタガ、其ノ彌々實行ノ域ニ入ル可キ機運ヲ迎ヘ來ツタノハ一八八五年ノコトデアツタ。

即チ同年 Der allgemeine Verband der deutschen landwirtschaftlichen Genossenschaften へ Neustadt a. H. ニ大會ヲ開キ左ノ決議ヲ爲シタ。

一、近時經濟界ノ發達ハ穀物ヲ組合ニ依リ共同ニ販賣スルヲ以テ大地主ニモ小地主ニモ共ニ必要ナルニ至ラシメタリ。

二、此ノ目的ノ爲メニ諸多ノ生産區域内ニ於テ然ル可キ場所ニ一定ノ組織ノ下ニ國家ノ費用ニ依リ穀倉ヲ設クルヲ要ス。

三、此等ノ穀倉ハ農業組合ニ貸與セラル可キモノトス。

四、帝國銀行若クハ新設ノ中央産業組合金庫ハ各産業組合ニ對シテ貸付ヲ行フ可シ(註)

又同年ヘッセン大侯領内ノ三農業組合モ大會ニ於テ略ボ右ト相以タル決議ヲ爲シタノデアアル。而シテ Die Reifensche Darlehenskassenvereine für Niederschlesien und Mittelschlesien zu Liegnitz モ同年十一月ノ大會ニ於テ決議シテ穀物共同販賣組合ヲ設立スルハ當時ノ農民ノ窮狀ヲ救フ唯一ノ道ナル可キヲ認メタクレドモ、之ハ唯ダ國家ノ設立スル大イナル穀倉ノミヲ以テシテハ目的ヲ達スルニ十分ナ

ラズ何レノ農民ニモ利用ノ容易ナル多數ノ小穀倉ノ設ラケレ、然カモソハ多クノ經費ヲ要セズ鐵道トノ連絡ノ極メテ便利ナル場所ニ設ケラルルヲ要スト云フコトヲ揚言シタ、其他西普魯西、バイエルン等ニ於ケル組合大會ニモ右等ト相似タル幾多ノ決議ヲ見タ。

然ルニ Dr. Rolland ノ如キハ米國ニテ氏が實地ニ講究セル所ニ徴シ、穀倉ノ設立ノ必ズシモ一概ニ歡迎ス可カラズ大ナル注意ト警戒ヲ要スル旨ヲ公ニシタ。氏及ビ其他穀倉組合運動ニ反對スル者ノ主眼トスル所ハ、縱令穀倉組合ヲ設立スルトモ、ソハ必ズシモ穀物商人ヲ排除シ得ルモノニ非ズト云フニ存スルノデアル。即まんはいむノ商業會議所ノ公ニシタ意見ノ如キモ組合ニ依ル穀倉業ハタダ特別ニ有利ナル事情ト頗ル卓越セル管理トノ結合スルニ依リテノミ其ノ成果ヲ上ゲ得キモノデアルノニ、斯ノ如キハ實ニ例外ニ屬ス可キ事柄デアレバ、通例トシテハ穀倉組合ハ資本主ニ依リ設立セラルル大穀物倉庫會社ノ壓迫ノ爲メニ到底存立シ得キモノデナイト云フコトデアツタ(註)

此等賛否ノ議論ハ紛然トシテ歸着スル所ヲ知ラナカツタガ、贊成論ハ大體ニ於テ有力デアツテ、特ニソガ農民側ノ歡迎ヲ受クルモノデアツタガ爲メニ、時情ハ大ニ之ガ爲メニ動カサレ、終ニ諸聯邦政府ヲシテ或ハ自ラ進ムデ試驗的ニ穀倉ノ設立ヲ爲シ或ハ又多額ノ補助金ヲ交付シテ之ヲ獎勵スルニ至ラシメタ。

普魯西政府ハ一八九六年ノ法律ニ依リ三百萬馬克ヲ、其翌年ノ法律ニ依リ又二百萬馬克ヲ支出シテ試驗的ニ自ラ穀倉ヲ設立スルコトトシタ。此ノ試驗的設立ハ一九〇五年ヲ以テ切上グラレタガ其間ニ政府ハ學術的試驗ノ爲ニ設ケラレタル

伯林ノ穀倉以外ニ實ニ三十五箇ノ穀倉ヲ造ツタノデアアル。而シテ此等國費ニ依リテ建設セラレタル穀倉ハ固ヨリ國家ノ所有ニ屬シ、初メ先ヅ最短五箇年ノ期限デ産業組合ニ貸付セラルルモノトシ、賃貸料ハ建築費ノ高ニ應ズルコトトセラレ、利率ハ之ヲ左ノ二種ニ區別セラレ、低ヤ利率ヲ適用スルモノニ對シテハ國家ハ其ノ穀倉ノ營業利益ノ分配ニ預ルモノト定メラレタ。

(甲)利率		(乙)利率	
契約第一年	建築費ノ一 $\frac{1}{2}$ 分	契約第一年	建築費ノ一分
同 第二年	同 二分	同 第二年	同 一分
同 第三年	同 二 $\frac{1}{2}$ 分	同 第三年	同 一 $\frac{1}{2}$ 分
同 第四年	同 二 $\frac{1}{2}$ 分	同 第四年	同 二分
同 第五年	同 二 $\frac{1}{2}$ 分	同 第五年	同 二 $\frac{1}{2}$ 分

而シテ右試験的企劃ノ結果ニ就キテ見ルニ、其ノ經濟的效果ハ固ヨリ區々デア
ルガ、概シテ云ヘバ成績不長ト云フヲ憚ラヌノデアツテ、右等ノ内一部分ハ最初ノ
試験的期間經過後直チニ賣却セラレ、他ノ一部分ハ賃貸セラレ、最大ノ穀倉タルハ
るれ其他七箇所ノ穀倉ハ空倉トシテ放置セラルルノ悲運ヲ迎ヘタノデアアル。其ノ
失敗ノ原因ハ何レモ規模ノ大ナリシガ爲メニ先ヅ資金ニ缺乏シタルコトト、次ニ
ハ、理事者ガ斯卡ル大規模ノ穀物販賣ヲ爲スニ就イテ商取引上ノ經驗技能ヲ缺ギ

常ニ商機ヲ捕ヘテ有利ナル販賣ヲ爲スヲ得ナカツタコトトガ其ノ主ナルモノデアル。又組合員ニ德義心十分ナラズ、自己ニ都合ヨキ折ニハ私ニ個人的ニ販賣シ市價其他ノ自己ニ都合惡キ時ニバカリ穀倉組合ニ穀物ヲ持込ムト云フ様ナ事情モ無いデハナカツタノデアル。

普魯西ニ於ケルト頗ル事情ヲ異ニシばいゑるんニテハ穀倉組合ハ相當ノ成績ヲ上グルヲ得タ。同國ニテハ穀倉ノ設立ニ當ツテハ内務省ノ基金中ヨリ無利子ノ貸付ヲ爲シ又鐵道停車場ニ沿フ土地ヲ頗ル些少ノ費用(後ニハ無償)ニテ使用セシムル等ノ便宜ヲ與ヘ又 Kreis-Maximilians-Unterstützungsfond 及 Orts-u. Distrikts-Magazine 等ノ基金ヨリモ貸付ヲ爲シテ、成ル可ク小規模ノ穀倉ヲ設ケシムルニ努メタノデアツテ、又穀倉經營ヲ有スル販賣組合ノ設立ハ大抵之ヲ貸付金庫組合 Darlehenskassenvereine ニ附屬シテ行ハシメタ。此ノ方法ニ依ルトキハ貸付組合ハ唯ダ單純ニ對人信用デ以テ貸付ヲ行フ代リニ、今ヤ穀倉中ニ現ニ存在スル組合員所有ノ穀物ニ對シテ貸付ヲ爲スコトトナリ頗ル事業ノ安全ヲ期シ得ラルルノデアル。而シテ穀倉ハ貸付組合自身ニ依リテ設ケラルルコトモアルガ、夫レヨリモ其ノ支配下ニ屬スル穀物販賣組合ニ依リテ設ケラルルヲ可トセラレテアル。^(註)惟フニ此ノ遣方ハ

註 1. Böhm a. a. O. S. S. 79-86

2. Wygodzinski a. a. O. S. 177 ff.

ばいゑるんニ於ケル穀倉組合ヲシテ成功セシムルニ大ニ與ツテ力アツタモノト云ハナケレバナラヌデアラウ。尙ホばいゑるんニテハ穀倉組合ト其ノ地方ノ官公衙特ニ陸軍ノ糧秣廠ナドトノ連絡ノ好ク取レテ居ルコトモ、前者ヲシテ能ク其ノ業ヲ成スヲ得セシムル大イナル原因デナクテハナラス。

要スルニ獨逸ニ於ケル穀倉運動ハ普魯西ニ於ケルトばいゑるんニ於ケルト頗ル其ノ實行ノ形式ヲ異ニシ、從テ其ノ成績ヲ異ニスルカラ、一概ニ全國ニ涉ツテノ効果ヲ述ブルコトガ出來ナイ。而シテ前者ハ稍々其ノ組織ヲ中央集權的ニシ後者ハ稍々地方分權的ニシタトモ云ヒ得ラルルノデアツテ、前者デハ、特ニごくせん州ノ如キニ在ツテハ、頗ル集權的ニ唯ダ一個はるれニ大穀倉ヲ設ケルト云フ風ナ遣方ヲ取ツタニ反シ、ばいゑるんデハ諸地方ニ多數ノ小穀倉ヲ設ケシムルノ方針ヲ取リ、例ヘバ模範的ト呼バレテ居ル Stambach ノ穀倉ヲ見テモ、構造ハ木造ニテ間口七間奥行三間ノ三階建デアツテ、不用ニ歸シタ際ニハ之ヲ普通ノ住家ニ改築スルニ餘リ不都合ノ無イ様ニ建築セラレテアルノ有様デアル。此ノ南北獨逸ニ於ケル主義ノ相違ハ臆テ又其ノ成敗ノ岐ルル一原因ヲ爲シタモノト見ルノ外ナク、這間ニ致フ可ク學ブ可キモノアルヲ思ハザルヲ得ナイ。

五 穀倉組合

右述ブルガ如ク獨逸ノ穀倉ハ米國ノト全ク性質ヲ異ニシ後者ノ純商企業的ナルニ反シテ産業組合ニ依ル共同的ノモノデアル。從テ獨逸デハ穀倉ト云ヘバ穀物ヲ共同ニ貯藏シ若クハ販賣セムガ爲メニ設ケラレタルモノデ、中間商人ノ手ヲ離レ生産者ノ販賣利益ヲ大ナラシムルヲ目的トスルモノデアルト一般ニ了解セラレテ居ル次第デアル。

穀倉組合ノ組織ニ至ツテハ其ノ詳細ヲ一々此ニ叙述スル譯ニハ行カヌガ、簡單ニ重要ナ點ヲ云ツテ見レバ、其ノ組織方法ニハ二種アル。一ハ組合員ガ其ノ倉庫ニ入ルル穀物ニ對スル處分權ヲ有シ、穀倉ハタダ穀物ノ精選、乾燥、貯藏ヲ爲スノミ、而シテ穀物ノ販賣ハ所有者自ラ之ヲ爲スカ、然ラザレバ、穀倉ノ理事者ト協定セル上下一定ノ價格範圍内ニ於テ理事者ニ之ヲ委託スルカニ依リテ之ヲ行フ。他ハ之ヨリモ一步ヲ進メタモノデアツテ穀倉ハ入庫セラルル穀物ヲ其ノ標本ニ就キ種類、掃除手入ノ程度、乾燥ノ善惡、重量色合等ヲ吟味シテ等級ニ區別シ、其ノ所有者ノ計算ニ於テ之ガ賣却ヲ行フノデアル。(註)

穀倉ガ入庫ノ穀物ニ對シテ證券ヲ發行シ入庫者ハ之ニ依ツテ資金ノ融通ヲ得依テ以テ一時資金ノ窮乏ヲ免レ穀物ノ賣急ギヲ爲スコトナク、自ラ穀價ノ調節ノ行ハルルト云フガ如キニ關スル問題ハ、穀倉組合ニ就テモ亦組織上ナリ職能上ナリ經濟界ニ對スル貢獻ノ點ナリ驕ツテハ又其ニ伴フ弊害ノ點ナリニ於テ最モ重要ナ問題デアツテ、頗ル論議ス可キモノガアルガ、之ハ總テ「穀倉證券論」ニ讓ルコトシテ、茲ニハ以下少シク穀倉組合ノ一般的ノ長所ト短所トニ就テ述ブルニ止メル。先ヅ穀倉組合ノ利點ヲ見ルニ凡ソ左ノ諸點ニ之ヲ概括スルコトガ出來ル。

(一) 農生産者ハ分散セル各自ノ小生産量ヲ以テシテハ能ク其ノ生産セル穀物ヲシテ市場相場ニ適合セシムルコトガ出來ズ、市場ノ景氣ヲ利用シテ十分ナル生産利得ヲ上グルコトガ六ヶ敷イノdealガ、今穀倉組合ヲ組織シ穀物ノ共同販賣ヲ行フニ於テハ、集メラレタル穀物ハ從テ大量トナリ好ク市場賣買ニ適合セシムルコトガ出來ル。

(二) 組合ニ於テ穀物ヲ共同販賣スルニ於テハ多少トモニ中間商人ノ手ヲ省クコトガ出來、直接ニ陸海軍ノ如キ大需要者ニ販賣ヲ爲スヲ得ルノミナラズ、少クトモ大商人ト取引ヲ爲スヲ得ルガ故ニ、從來小商人ガ仲買ニ依リテ占メ居タル利得ノ

大部分ヲ生産者ノ手ニ收メルコトガ出來ル。

(三) 穀物ヲ組合ノ倉庫ニ入ルルニ於テハ生産者ハ之ニ對シテ資金ノ融通ヲ受クルノ便ガアル。即チ穀物ヲ入庫シタル組合員ハ直チニ資金ヲ入用トスル場合ニハ、穀物價格ノ少クトモ三分二迄ハ前拂ヲ受クルノ便ガアル。而シテ組合員ハ之ニ依リ借金ヲ爲スコトナクシテ然モ能ク販賣ニ都合ノ好イ時期ノ到來スル迄穀物ノ賣却ヲ差控フルコトガ出來ル。

(四) 共同倉庫アルガ爲メニ組合員ハ隨時其ノ生産穀物ヲ之ニ入庫スルヲ得ルニ由リ、各自ニ倉庫ヲ所有スルノ必要ガナクナル。

(五) 穀倉組合ハ穀物ノ手入一切ヲ引受クルガ故ニ各生産者ハ其ノ手入保存ノ爲メニ要スル時間ト費用トヲ節約スルコトガ出來ル。又盜難火災等ヨリ起ル損害ヲ免ルルコトガ出來ル。

(六) 共同倉庫ニ於テ諸種ノ品質ヲ有スル穀物ヲ適當ニ混合スルニ依リ之ヲシテ齊一ノ品質ヲ有スルヲ得セシメ其ノ販賣能力ヲ増加セシムルノミナラズ、乾燥精選上等ニモ十分ナル結果ヲ上グルコトガ出來ル。

(七) 穀倉アルガ爲メニ種子ノ選擇、生産穀物ノ改良、俵裝上ノ改良等諸多ノ技術的

改善ヲスルヲ得ルノ機會ヲ生ズル。

(八) 最後ニ組合ニ依ル共同販賣ハ其ノ取扱量ノ多大ナルガ爲メニ多少トモニ市況ヲ支配スルノ望ガアリ、少クトモ賣價ヲ多少高貴ナラシムルヲ得ル。(註)

以上穀倉組合ノ利點ト見ラル可キモノニ對シテハ同時ニ又其ノ缺點タル可キモノノ附隨スルヲ避ケ難イ。試ニ左ニ其ノ主要ナル二三點ヲ擧ゲテ見ル。

(一) 穀物ノ販賣ト云フコトハ頗ル商機ニ熟シ市場ノ狀況市價ノ變動ヲ常ニ怠ナク觀察シテ最モ有利ナル時期ニ最モ有利ナル方法ヲ以テ之ヲ行フヲ要スルモノデアルガ、商人ナラザル組合ノ理事者ガ能ク之ヲ行ヒ得テ遺憾ナキヲ期スルハ實ニ望ミ難イ所デアル。

(二) 組合ガ右ノ如ク困難ナル販賣上ノ掛引ヲ行フ上ニ於テ投機ニ超然タルハ頗ル難事デアル、何レノ國ニ於テモ穀物ノ取引ニハ必ズ投機ノ隨伴スルモノデアツテ、其ノ然ルガ爲メニ穀物ノ取引ニハ十分ナル商的掛引ヲ要スル次第デアル。然ルニ今穀倉組合ノ理事者ガ一面ニハ十分有利ナル穀物販賣ヲ爲スヲ必要トセラレ他面ニハ全ク此ノ投機ニ指ヲ染ムルコトナカラムトスルハ實ニ容易ナ事デナイ。然シ若シ理事者ニシテ誤ツテ投機ニ足ヲ入ルルガ如キコトアラバ同時ニ組合ハ

註=1. Crüger, a. a. O. S.* 19 fg.

2. Grabein. Wirtschaftliche und sociale Bedeutung der ländlichen Genossenschaften in Deutschland. 1908. S. 93 fg.

3. v. d. Goltz Die agrarischen Aufgaben der Gegenwart. 2. Aufl. 1895 S. 135

魔道ニ陷ツタモノデアツテ、モハヤ組合ニシテ組合タラザルハ言ヲ俟タヌ。組合員モ亦穀倉證券ノ利用其他ニ依テ投機ヲ行フヲ避ケ難イ。然シ此事ハ『穀倉證券論』ニ於テ論ズルコトトスル。

(三) 組合員ニ十分ナル德義心ヲ望ミ商人ノ競争ニ因ル誘惑ニ對シテ道心健固ナルヲ期待スルコトガ困難デアル。即チ商人ノ團結十分ナル地方ノ如キニ在リテハ商人ハ一時損失ヲ顧ズ組合員ニ對シテ時價以上ノ代價ヲ提供シテ其ノ穀物ノ穀倉ニ入ルヲ妨ゲ之ヲ自家ニ奪ヒ取ラント企ツルヲ例トスル。組合員ニシテ十分德操堅固ナラザル限リハ此ノ誘惑ニ對シテ打克ツコト能ハズ、穀倉ニハ下等ノ品ヲノミ入ルルカ然ラザレバ市況ノ不利益ナル時ニ於テノミ入荷シ、上等品ト市況ノ有利ナル時トニハ商人トノミ取引スルコトトナリ穀倉組合ハ到底有利ニ事業ヲ營ミ得ザルコトトナルノデアアル。此ノ弊害ヲ防止スルガ爲メニハ、組合員ニ對シテ其ノ生産穀物ハ必ズ之ヲ組合ノ倉庫ニ入レナケレバナラストスル強制的規定ヲ設クルコトト、組合員ノ入レタル穀物ニ對シテハ唯ダ其ノ代價ノ一部分ノミヲ支拂ヒ置キ殘餘ハ事業ノ年度計算ノ際之ヲ支拂フ制度ヲ取ルコトトノ二方法ガアル。ケレドモ農民ハ一般ニ右ノ如キ強制ヲ受クルヲ好マズ、又一部支拂方法ハ殘餘額

ノ適當ナル計算方法ヲ得ルニ難キ等ノ事情アリ實際ニ行ハレ難キヲ否ムコトガ出來ヌ、從テ組合ノ榮枯盛衰ハ繫ガツテ組合員ノ德義心如何ニ係ル所ガ多イ。

要スルニ穀倉組合ハ其ノ經營頗ル困難デアツテ十分ナル利得ヲ擧グルハ容易ナラザル事實デアル。倉庫建築費ノ利子、倉庫ノ維持修繕費、事業經營ノ流動經費ハ可也多額ヲ要スルカラ、穀物ノ共同販賣ニ依ツテ多少高價ニ之ヲ賣リ得タリトスルモ、其ノ利益ハ右ノ經費ノ爲メニ吸盡サルルヲ免レ難イ。從テ若シ販賣ノ方法拙劣ナランカ必ズヤ積極的ノ損失ヲ招クコトトナル。サレバ穀倉組合ノ事業ハ市場ニ大勢力ヲ振ヒテ多少トモ之ヲ支配セムトスルガ如キ考ヲ捨テ、成可ク私經濟的立場ヲ守リ、唯タ其ノ組合員ノ利益ヲ幾ラカデモ助長スルト云フ事ヲ以テ主眼ト爲シ、小ジシマリト地味ニ經營ヲ行ヒ、理事者其人ヲ得テ誠心誠意ナル管理ノ行ハルルヲ必要トスル。然カスルニ於テハ必ズヤ多少ノ効果ヲ擧グ得可キデアツテ、事ノ成否ハ物質的方面ニ存セズシテ多ク精神的方面ニ存スルモノタルヲ知ラナケレバナラス。^(註)

最後ニ穀倉組合ノ設立ニ關シ國家ノ補助ヲ與フルヲ要スルヤ又之ヲ可トスルヤノ問題ニ就キテハ大ニ議論ガアル。之ヲ必要トスル者ハ謂ラク、他ノ組合ト異リ

註 1. Meitzen. Der Boden und die landwirtschaftlichen Verhältnisse des Preussischen Staates. Berlin 1908. S. 342 fg.

2. v. d. Coltz a.a. O. S. 133.

穀倉組合ハ倉庫ヲ建造スルニ餘分ナル多額ノ費用ヲ要シ又其ノ業務經營ニモ費用ヲ要スルコト割合ニ多イノデアルカラ、セメテ倉庫ダケハ國家ノ補助ノ下ニ之ヲ建設スルヲ得ルニ非ザレバ、組合ハ到底十分ノ成績ヲ擧ゲ得可キモノデナイト。然ルニ補助ヲ必要トセズト爲ス者ハ、組合ハ元來自助ノ精神ニ基イテコソ成績ヲ上ゲ得レ、從テ主義トシテ先ヅ國庫ノ補助ト云フガ如キハ之ヲ排斥セザル可ラザルノミナラズ、國庫ニシテ一ト度穀倉組合ニ補助ヲ與フルニ於テハ他ノ組合モ亦之ヲ受クルヲ得ナケレバナラヌ筈デアリ、産業組合内ニ於テ特別ノ建設費ヲ要スルハ此ノ組合ニ特有ノコトデハ無ク、購買組合若クハ生産組合ニ於テモ亦同様ノ特別經費ヲ要スル場合ガ多イノデアルカラ、穀倉組合ニノミ偏派ニ補助ヲ與フ可キデハナイト主張スルノデアル。何レニモ一理アルケレドモ、吾人ハ、國庫ニ其ノ餘裕アル場合ニハ、補助的給與ヲ爲スハ不可デアルトシテモ、低利若クハ無利子ナル貸付ヲ與フルコトハ當ニ之ヲ排斥ス可キニ非ザルノミナラズ、穀倉組合ヲシテ克ク成立スルヲ得セシムル所以デアルト考ヘル。其ノ詳細ニ涉ツテハ又別ニ論ズル場合ガアルデアラウ。

六 穀倉組合ノ困難

以上述ブル所ニ依ツテ明カナルガ如ク穀倉ハ、ソガ一ノ營利的商企業タル場合ト、産業組合ノ事業トシテ經營セラルル場合トハ其ノ性質、其ノ職能、其ノ經濟的効果等ニ於テ頗ル趣ヲ異ニスルノデアル。而シテソガ一ノ商企業トシテ營マルル場合ニハ其ノ大ニ發達スルコトガ國民經濟上特ニハ農政上ヨリ之ヲ見テ果シテ觀迎ス可キモノナルヤ否ヤハ大ニ疑問デアル。若シ爲メニ米國ニ於ケルガ如キ狀態ヲ呈スルニ至ルガ如キアラバ、農生産者ハ却テ大ニ苦メラルルコトニナルノデアツテ、少クトモ農政上ノ見地ヨリシテハ之ヲ排斥シナクテハナラヌ。農生産者ノ利益ヲ助長シ一般ニ農民經濟ヲ堅實安固ナラシム可キ方策ノ一トシテ若シ穀倉ノ制度ノ探ル可キアラバ、ソハ所詮獨逸ニ於テ之ヲ見ルガ如キ産業組合ノ組織ニ成ルモノデナクテハナラヌ。

現ニ我國ノ米券倉庫ノ如キデモ、若シソガ從來ノ例ニ於テ之ヲ見ルガ如ク商的企業トシテ行ハレ其ノ方向ニ於テ發達セムトスルモノナラバ、農政上ノ見地ヨリシテハ其ノ今後ノ發達ニ對シテハ寧ロ大ニ警戒ヲ要スルノデアツテ、漫然之ヲ助

長ス可キデハナイ。農民經濟ノ維持ト發展トノ爲メニ何等カノ助タラシメントスルニハ、ヤハリ産業組合ニ依テ經營スル穀倉ノ發達ヲ推奨シナクテハナラス。特ニ我國ノ米券倉庫ノ經營組織、所謂米券ノ發行ト之ヨリ生ズル經濟上ノ關係等ニ至ツテハ、又少シク特別ノ研究ト特別ノ考慮トヲ必要トスルノデアルカラ、縱令我國ニ穀倉ノ發達ヲ計ル可キ時務ノ要求アリトスルモ、ソノ直チニ米券倉庫ノ形式ニ於テスルヲ可トスルヤ否ヤノ問題ニ就テハ大ニ講究ヲ費サナクテハナラス。

ソハ兎モ角、吾人ハ我國ニ於テ今後穀倉ノ發達ヲ促ス可キ必要アラバ、ソハ穀倉組合ノ組織ニ依ルモノデナクテハナラスト信ズル者デアルカラ、茲ニ本論ヲ終ラントスルニ臨ムデ、尙ホ少シク其ノ發達ニ必要ナル條件ト見ル可キ事情ヲ述ベ且ツ其ノ事業困難ノ點ヲ擧ゲテ見タイト思フ。

普魯西ニ於ケル試驗的建設ノ結果ニ徴シ見ルモ、穀倉ヲシテ成功セシメンガ爲メニ必要ナルハ(一)之ヲ建ツルニ當ツテ先ヅ以テ十分四圍ノ事情ヲ斟酌シ其ノ規模ノ大サヲシテ能ク其ノ事情ニ適合スルモノタラシムルコトト(二)事業經營上他ノ産業組合特ニ購買組合ナドト十分ナル連絡ヲ取り両々相扶ケテ進ム可キコトト之デアル。

(一) 地方幾干ノ大サニ對シテドレダケノ規模ノ穀倉ヲ設クレバ恰モ適當ナリト云フヲ得可キカニ就テハ一定ノ規則ヲ上ゲルコトハ出來ヌ。之ハ一ニハ當該地方ニ於テ産業組合的思想ノ普及シ其ノ精神ガ好ク地方人ニ依リテ會得サレテ居ルト然ラザルトニ依ツテ差異ヲ生ズルノミナラズ、一ニハ又當該地方ニ於ケル農經營ノ大サノ配合如何、換言スレバ大中小農ノ配合如何ニ依ツテ差異ヲ生ゼザルヲ得ナイ。小農ノ多キ地方ニ在リテハ彼等ニ多ク穀物ヲ賣却スルノ餘裕ナキ爲メ穀倉ハ全ク不必要ナコトモアルシ、又必要ハ之アリトモ其ノ設備ハ小ナルヲ以テ足レリトスルデアラウ。

サレバ安全ナル道ハ新ニ倉穀ヲ作ルニ當リテハ、先ヅ多少小サク造リ置キ後必要ニ應ジテ之ヲ擴張スルコトノ出來ル様ニシテ置クコト是デアアル。サレドモ之レ恰モ穀倉ノ事業ニ就キ其ノ最モ難點タリ缺點タリトスル所デアアル。蓋シ穀物ヲ賣捌ク迄之ヲ穀倉中ニ貯藏スルト云フコトハ、ソレ自身トシテ之ヲ見レバ寔ニ之レ necessary evil デアル、之ヲ貯藏スルコトナクシテ十分ナル販賣效果ヲ上ゲ得可クンバ直チニ之ヲ販賣スルノ簡單ニシテ失費ナキニ若カヌ。唯ダ市況ガ此ノ即時販賣ヲ不利トスルガ故ニ之ヲ貯藏シテ賣却ニ都合好キ時期ノ到來スルヲ待ツノデア

ル。而シテ其ノ貯藏ノ時期長ケレバ長キダケ穀物ノ損耗ト貯藏ノ費用トノ嵩ミ來ルヲ避ケ難イ。從テ之ヲ賣却スルニハ可也多量ニ共同ニ之ヲ行フコトニ依テ個人個々ニ之ヲ行フヨリモヨリ以上ノ利得ヲ上グルヲ事業ノ本旨トシテ必要トスル。此ニ於テカ今穀倉餘リニ小ナルニ於テハ此ノ共同販賣ニ依ル利益ヲ上グルコトガ出來ヌ。即チ穀倉ハ事業其者トシテ一ノ「デレムマ」ニ陥リ居ルモノデアル。之ヲ大ナラシメムカ經營困難デアル、之ヲ小ナラシメムカ事業上十分ノ效果ヲ上グルコトガ出來ヌ。大小其ノ適度ヲ得セシメムコトハ頗ル先見ト手腕トヲ要スル所デアツテ聽テ之レ穀倉事業ノ多ク十分ナル成績ヲ舉ゲ得ザル所以デアル。

(二) 生産者ノ共同販賣組合ト消費者ノ共同購買組合トガ兩々相結ビ其ノ事業經營ニ於テ互ニ得意先タルノ關係ニ立ツコトハ兩者ヲシテ共ニ成功セシムル道デアル。今之ヲ販賣組合タル穀倉ノ事業成功ノ上ヨリ云ヘバ、若シソガ其ノ得意先トシテ購買組合陸海軍糧食部トノ連絡ノ有利ニシテ必要ナルハ先ニ之ヲ述ベタ通りデアル)ノ如キヲ有セズ、個人ヲ相手トシテ所謂自由競爭市場ニ立チテ其業ヲ行ハントスルニ於テハ、必ズヤ卸賣及ビ小賣商人ノ競爭ヲ受クルヲ免レ難イ。而シテ此ノ競爭ニ於テハ、私人ガ直接ニ自己ノ利益ノ爲メニスル方が産業組合ノ理事者

ノ之ヲ爲スヨリモ常ニ優強ナリトシナクテハナラヌ。特ニ商人ガ一致團結シテ競争ニ表ハレ來ルニ於テハ産業組合ハ到底之ニ打勝ツコトハ困難デアル。

然ルニ若シ生産者側ト消費者側トノ兩組合ガ相結ムデ互ニ得意先トシテ業務ノ連絡ヲ有スルニ於テハ商人ノ競争ハ終ニ能ク其ノ爪牙ヲ立ツルニ餘地ナク、又兩組合共ニ安定セル取引先ヲ有シ業務モ簡單且ツ安固トナリ、成功ヲ得ルニ多大ノ便宜ヲ得ルヤ明カデアル、

此ノ兩種組合ノ結合ト云フコトニ就テハ獨逸ニテモ既ニ早ク一九〇〇年頃ヨリシテ著シキ運動ノ表ハレ來リ、特ニらいん、ぶろいせんニテハ農業者側ヨリシテ都市ノ購買組合トノ連絡ヲ十分ニセムトスルノ努力ノ行ハルルニ至ツタ。佛蘭西ニテモ亦此ノ問題ハ大ニ講究セラレ、曾テ Syndicat économique agricole de France ハ此爲メニ特ニ Commission mixte des syndicats agricoles et sociétés coopératives de consommation ヲ設ケテ盡力シタコトガアリ、其ノ結果此ノ方面ノ道大ニ開ケ來リ、又之ヲ國際的ニ及ボサントスルノ議モ先ノ巴里大博覽會ノ際開カレタ Alliance coopérative internationale ニ於テ決議ヲ見ルニ至ツタ。英國ニテモ其ノ産業組合ハ未ダ一般ニ十分ナル發達ヲ遂グ能ハザルニ拘ラズ Cooperative wholesale society ノ如キハ典抹ノ農業組合ト大

規模ノ業務上ノ連絡ヲ有シ此ノ方面ノ活例ヲ示シテ居ル。^(註)

要スルニ此等ノ事情ニシテ十分顧慮セラレタル上、其國實際ノ事情ト必要トニ應ジテ政府ノ指導ト當事者ノ誠意アル努力トノ相扶ケテ進ムニ於テハ、穀倉組合ハ發達スルコトモ出來、又相當ノ効果ヲ上ゲ得ル望ハアルケレドモ、其ノ事業ハ決シテ容易ナモノデナイト云フコトヲ最後ニ一言シテ置ク次第デアル。

註 1. David. Socialismus und Landwirtschaft I. Bd. S. 563 fg.
2. Meitzen a. a. O. S. 338 fg.